

平成 26 年度 施策評価シート

基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保
重点的方針	1. 高齢者等の安心な暮らし支援
概要	「長寿の里」として、高齢者等が生きがいを持って健康に、住みなれた居住地で暮らし続けることができるように、町民同士又は町民と行政の協力・連携により、高齢者等の暮らしをみんなで支え合うまちづくりに取り組みます。

基本計画(分野別方針)事業名	実施計画 事業数	総合評価
(1) 高齢者の社会参加の支援	1	B
(2) 介護予防・生活支援サービスの推進	2	B
(3) 介護サービスの充実	1	A
(4) 雇用機会の充実の検討	1	A
(5) 保健サービスの充実	1	A
(6) 地域医療の充実	1	A
(7) 社会保障制度の普及・啓発	1	A
(8) 社会保障制度の適正な運用	1	A
課題 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしの高齢者増加に伴う見守り体制の充実が必要となる。 ・より効果の高い認知症の予防事業の展開並びに認知症高齢者への対応が必要となる。 ・高齢者の在宅ケアを支えるため、在宅医療・介護の連携の推進が必要となる。 	

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き施策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 施策を推進するためには、事業を改善する必要がある D: 施策全体を見直す必要がある	B
	説明	・高齢者が生きがいを感じながら安心して暮らしていくために、介護保険や医療保険等の社会保障制度を始め、介護保険外の在宅サービスや高齢者の見守り、生きがいに関する事など、様々な事業を実施している。現在一定の事業評価が出来るが、ひとり暮らしの高齢者や認知症の高齢者等の増加が見込まれるため、対応策のさらなる強化が必要となる。
	方向性	・団塊の世代が全て後期高齢者となる、いわゆる2025年問題に向けて、在宅医療・介護、地域包括支援センター、ケアマネジャー、NPO、ボランティア、地域住民等が連携した「地域包括ケアシステム」を構築し、高齢者が住み慣れた自宅や地域で安心して生活を続けられる様に支援する体制づくりを検討していく。

◎最終評価者[庁内評価委員会]

A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き施策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 施策を推進するためには、事業を改善する必要がある D: 施策全体を見直す必要がある	B
意見等	「高齢者等の安全な暮らし支援」の項目については、適切に位置付けられており、効率よく事業が進められているが、一部改善の余地がある。今後地域包括ケアシステムの構築がもたらされており、高齢者が住み慣れた場所で安心して生活を続けられる様に引き続き支援事業を推進していく必要がある。